

令和 3年度

事業報告書

社会福祉法人 東 筑 紫 会
特別養護老人ホーム 智 美 園

令和 3 年度事業報告

特別養護老人ホーム 智美園

はじめに

令和 2 年より新型コロナウイルス感染症に怯えながらも、コロナ禍の生活に慣れ、拡大する感染者数に麻痺し、緊張感が薄れている現状あり。3 回目のワクチン接種も終え、毎月の PCR 検査結果に不安と安堵を繰り返す毎日です。その様な生活の中、智美園においても入所者に 5 名の感染者をだす結果となりました。職員の感染者は出て居らず、感染原因については不明のままですが、病院の協力、職員の努力により、それ以上の拡大はなく終息に至った。多床室での隔離対応については、身体的疲労だけではなく、精神的にも負担を来し、職員だけではなく、一番に入所者への影響の大きさに驚きを隠せない。「終息」文字通り完全に終わる事を願いながら、見えない感染症との戦いを継続中です。めまぐるしい一年の入退所の実人数につきましては、8 名を見送り、10 名の新しい方々を迎え、稼働率は 98.94%の実績となった。ロングショートから入所へ切り替えにより、空きベッドをカバーし前年度よりはアップできたが課題とし、急な入院等への対応不足がある。引き続き、自粛の多い現状で有り、安定した施設運営を行うため、(体)だけではなく(心)の健康も維持できる様に支援が必要です。常に危機感をもち、安定収入に向け努力していきます。また、職員の質の向上と環境整備を行い、入所者様に安心・安全・快適な生活を提供できる様に、努力いたします。

以上

事業報告書

智美園デイサービスセンター

はじめに

令和3年度は年間利用者数が8,607名、1日あたりの平均利用者数は27.6名でした。前年度に比べ424名減少し、年間売り上げも-4,316,044円の減収となり予算達成することが出来ませんでした。

新型コロナウイルス感染症(濃厚接触者も含む)等の疑いの為、余儀なく休まれる方や事業所閉鎖などの影響もありましたが、特に下期に入り入院される方や施設入所される方が例年になく増えた事も大きな要因となりました。

新年度は、引き続き感染予防のための適切な対応および対策の徹底を強化し室内レクリエーションの充実に努め、インサイドセールスにて事業所のアピールを行い、利用者獲得に努めてまいります。

以上

令和3年度 智美園在宅介護サービスセンター事業実施状況

<はじめに>

令和3年度も昨年同様新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、感染対策を講じながら適切なケアマネジメントを行えるように日々努めてきました。

感染拡大予防により業務の中で対面を控える場面もありましたが、Zoomを用いてのリハビリ会議の参加や病院での取り組みとしてビデオ動画を見せて頂いたり、前年に比べると新たな方法により状態の把握ができるようになりました。しかし対面しなければ分からないと感じることも多く、制限の中で情報収集力をつけるためにも所内で取り組んでいる課題整理総括表や事例検討は必要なものとなっています。今後もケアマネジメントの技術や信頼される介護支援専門員となるため情報共有し知識や技術を習得し実践に活かせるように取り組んでいきます。

<目標の実施状況>

(1) 介護支援専門員として知識、技術の習得を行いケアマネジメントを実施します。

- ・中間市介護保険課給付係から介護保険適正化におけるケアプラン点検事業において居宅サービス計画書、介護予防サービス支援計画書の提出を求められ提出を行いました。法令を遵守し適切な解釈ができるように努めていますが給付係の指導、助言を受けたところについては所内で情報共有し、その後のケアマネジメントに活かせるように努めてきました。
- ・コロナ禍ではありましたが病院側の新たな参加方法に合わせてアセスメント等の対応を行うことができました。

(2) 利用者地域社会との信頼関係の構築と情報管理を行います。

- ・コロナ禍で密を避けるということはありませんでしたが、利用者や家族が不安にならないように適切なサービスの実施に努めました。訪問する際には利用者、家族への説明と同意を得てサービス事業所との連携を行い迅速な対応に努めてきました。
- ・継続して所内での情報共有を行い、担当者が不在でも代わりに用件を確認し対応することや緊急時の対応を行うことを事業所の方針として説明し、安心して頂けるように努めました。対応した後の電話の際など感謝の言葉を頂きました。

(3) 利用者数の確保に努めます。

- ・10月から5人体制となりました。要介護者数は1人の介護支援専門員35人を目標としていますが目標達成できず、令和3年度3月の実績は最低のものとなってしまいました。サービス事業所に新たに居宅介護支援事業所が併設されたり、近隣の病院も居宅介護支援事業所を持っていることもあり依頼が少なくなっています。家族からの相談は、以前関わっていた方の紹介や依頼もありリピーターとして戻ってくれるのはありがたく、支援の際の信頼関係が築けているのだと思います。地域の居宅介護支援事業所として認知してもらう為に関係機関、利用者、家族との信頼関係を築いていき迅速な対応を行うことの継続、又、事業所のPR方法を考え利用者数の確保に努めていきます。

(4) 職員の資質の向上に努めます。

- ・新型コロナウイルスの感染拡大予防により研修会の延期や中止が続きました。Zoomを活用しての研修会の参加や少人数で開催される研修への参加を行い、共同研修では書面や会場での研修を行いました。所内での定期的な会議の実施で適切なケアマネジメントを行えるように努めました。今年度はZoom研修など積極的に参加できるように調整を行ってきたいと思っています。

研修目標の計画に基づき取り組んできました。今年度も目標に沿って実施し(3)の利用者人数の確保については紹介を頂けるように発信を続け利用者、家族、関係機関との信頼関係を築いていきます。

令和 3 年度事業実績報告書

特別養護老人ホーム 第 2 智美園

はじめに

前年度に続き、新型コロナウイルス感染症による制限がある中での運営となりました。目に見えないウイルスへの恐怖を感じながらも感染対策に努め、利用者様の新型コロナウイルス感染症発症を令和 3 年度も防ぐことが出来、利用者様の支援を継続することが出来ました。

面会の制限や、祭り等の施設行事の中止と利用者の皆様の楽しみが減ってしまいましたが、その中でも利用者様に季節感や楽しみを感じて頂けるよう努めました。例えば、規模を縮小し個別に祭りの雰囲気を感じて頂けるよう屋台のヨーヨーすくいを実施したり、個別の桜見学対応など密にならないよう職員が考え実施した事は嬉しく頼もしく思いました。今後も引き続き感染症対策に努め、楽しみのある生活が継続できるようにスタッフ全員で取り組んでまいります。

実績は特養とショートステイを合わせ年間稼働率 93.83%で終えました。

特養の新規入所者は 23 名、退所者は 27 名。退所理由は永眠 15 名(看取り対応 13 名が第 2 智美園で最期を迎えられる)、長期入院治療 8 名、在宅復帰 0 名、老健施設へ転居 4 名でした。令和 3 年度は永眠および長期療養のため退所された人数が多い年度でした。永眠された方の多くが当施設にて最期を迎えられ、なじみの方々と最後を迎えられた事は良かったと感じます。ショートステイは新規登録が 37 名、利用中止が 20 名(内 8 名が第 2 智美園へ入所)。コロナ禍においてショートステイは在宅からの利用となるため、自宅での検温や来園時の検温、手指消毒など感染対策に努め利用頂きました。特養同様にショートステイでも感染症の発症は無く支援の継続ができました。新規利用者様がショートステイに来て話が出来て楽しかった、食事が美味しかった、また利用したいとの声も聞かれ定期的にご利用頂けたことも日頃の職員の努力の成果だと感じます。

令和 3 年度、行動に制限がある中の支援で成功した出来事、喜んで頂いた事を再認識し職員の自信や成長に繋げ、令和 4 年度も継続してゆき利用者様の生活の質の向上や職員の資質向上に努めてまいります。

事業報告書

第2 智美園デイサービスセンター

はじめに

令和三年度は、年間利用者数が 5875 名、一日あたりの平均利用者は、18.3 名という結果でした。前年度よりも 145 名の増加となっています。年度の売り上げは 55,670,930 円でした。前年度に比べるとわずかに増加となっていますが、1 日平均目標者数の 28 名には到達していない状況です。体調不良や私用、入院により休まれる方がいたため、月平均率が低下している月もあります。年間の体験利用者数は 29 名であり、そのうち利用へとつながったのは 22 名となっています。また、新規利用者の中でも、利用者様の状態が変化し、ご自宅での生活が困難となり入所された方、永眠された方等がいます。

新規利用者獲得のため、体験利用の際は、事前にケアマネから情報を収集し、その方に合わせた援助方法、レクリエーションの変更や余暇活動の提供等、可能な限りニーズに合わせた対応を行っていきたいと思います。加えて、体験時の写真のお渡しも継続して行い、本人様の利用の意欲の向上につなげていきたいと思います。さらに、ご家族様の施設見学の受け入れも行い、契約へと結び付けていけるように努めていきたいと思います。他事業所への電話営業、訪問営業も引き続き実施していきます。

コロナ禍が続く中、現在デイ内では安全に過ごして頂けるように、職員、利用者様のマスク着用、定期的なアルコール消毒、席の配置等の感染対策の徹底を行っています。今後は感染予防に留まらず、感染者が出た場合や、職員の体調不良がある場合の対応の仕方等も、職員間でしっかりと共有していく必要があると思われました。

個別機能訓練・リハビリについては、個別機能訓練計画に基づき、作業療法士、機能訓練指導員が利用者様の身体機能に合わせたリハビリを実施しています。身体機能の低下防止、残存機能の維持を主体とし、本人様のその日の体調や精神面に合わせたリハビリのメニューを実施するように努めています。在宅生活の継続を念頭に、リハビリを通して本人様の意欲の向上を図り、「出来ること」を引き出していけるように取り組んでいきます。

令和3年度は施設理念である「その人らしく生きる喜び」をもとに、一人一人の利用者様に合わせた、心地良いサービスの提供ができるように取り組んでいきました。利用者様のニーズに沿ったサービス展開を行うために、今後も毎月のスタッフ会議を活用します。利用者様の気になる点や、身体的変化について職員内で意見交換を行い、改善点や対応策について検討していきます。

事業所や利用者様・ご家族との信頼関係の構築に努め、第2智美園デイサービスセンターが益々活気あふれる施設へとなるように尽力いたします。